

甲斐市の偉人 山県大弐

山県大弐は1725年、巨摩郡篠原村(甲斐市篠原)に生まれ、天文学や医学にも精通した思想家です。現在は「学問の神様」として知られ、山県神社に祭られています。

政治や経済、身分等について書かれた大弐の著書『柳子新論』は、幕末に活躍した吉田松陰にも影響を与えたと言われています。2014年には、富士川町在住の作家・江宮隆之氏により、小説『明治維新を創った男 山縣大貳伝』で、大弐の生涯とともに、吉田松陰との繋がりが描かれました。

2025年は山県大弐生誕300年を迎えます。甲斐市立竜王図書館では、郷土の偉人を多くの方に知っていただき、後世に伝えていくため、今後も「山県大弐」に関する資料を収集してまいります。

(甲斐市立竜王図書館 市岡香菜子)

甲斐市立竜王図書館 編



明治以降に出版された、
山県大弐著『柳子新論』

山県大弐について
書かれた本



図書館ボランティアの

日常から



Vol.12 講演「視覚障がい者の生活と読書」



音声案内で
スマホも自由自在!



6月21日(金)、代読サービス分野の企画で講演会を行いました。山梨県視覚障がい者福祉協会会長の埜村和美氏をお招きし、デイジー図書での読書や、松本市の盲学校での思い出話、見えない暮らしの中での家事の工夫、音声雑誌の制作の話などなど、多方向からの貴重なエピソードに皆聞き入りました。「見えないからこそ人や世の中とつながっていくことが大切」、との言葉にこちらも勇気をもらいました。

(図書館協力員担当 三森)

Information

2024年度下半期のイベント

10月14日(月) 中高生
ジョイントコンサート

合唱、吹奏楽、弾き語りなど、県内の中高生によるコンサートです。フレッシュな演奏をぜひ間近でお楽しみください。

12月7日(土) 放送大学公開講座 思春期のころ
～「魔女の宅急便」から考える～

思春期のころの特徴と、大人がどのように関われば良いのかというポイントを「魔女の宅急便」の物語をもとに解説します。

休館のお知らせ

10月28日(月)～11月5日(火)、図書館情報システム機器更新のため、閲覧エリアは休館します。期間中は当館ホームページ(10月28日(日))は交流エリア及び返却ポスト)もご利用いただけませんので、ご注意ください。



山梨県立
図書館

YAMANASHI
PREFECTURAL
LIBRARY

山梨県立図書館報
読書山梨156号
発行日 2024年10月1日

発行:山梨県立図書館(かいぶらり)

〒400-0024 甲府市北口2丁目8番1号
TEL:055-255-1040(代表) 255-1041(施設予約) FAX:055-255-1042
URL <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/>
E-mail ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp

読書山梨



YAMANASHI
PREFECTURAL
LIBRARY

山梨県立図書館報

156

2024.10.1 発行

小学校の講演会

館長コラム

図書館長の主な仕事は県内各地での講演会です。いろいろなところでしたが、先日は都留の全校生徒31人という小学校、お相手は1年生から6年生。今までいろんなところでいろいろな聴衆がいましたが、主な聞き手が小学1年生というのは初めてでした。

そもそも、6歳の子供を相手に講演が可能か、50分ということでしたが、そんな長い時間を聞いてもらえるものなのか、まったく自信がありません。文化勲章をもらった俳句の大家相手の講演会とか、学士院会員の聴衆とかいろいろしましたが、この子供たち相手の講演会ほど緊張させられたのはありませんでした。彼らはつい6年前までは、この世に存在していなかった、できたてのほやほや、湯気が立っているような存在です。

成果はよくわかりませんでした。とりあえず50分、なんとか椅子に座っていてくれました。目を輝かす子もいたし、何やらわからないことを一生懸命伝えようとする子もいて、とても賑やかで楽しく、極めて刺激的な時間を私としては過ごすことが出来ました。

すべての人に図書館はあって、そう、つい最近まで地上にいなかった人のためにも、県立図書館は開かれているのだと実感させられました。とても疲れましたけど。



金一 青穂

この本が
好き!

図書館スタッフおすすめの1冊



山のアトリエや東京での日常を綴った密やかで不思議な散文と、静謐な絵で織りなす、絵本作家・酒井駒子氏の初の画文集。

『森のノート』 酒井駒子/著
筑摩書房 2017.9
文章に耳をすませる感覚



山梨県立図書館
企画振興担当
山本真水

この子が見つめている先には何があるのだろうか。酒井駒子さんの手がけた作品を見ると、そう感じます。しん、とした美しさをたたえた子どもたちや動物たちの絵と、どこかひんやりした印象のエッセイから成っている一冊。綴られているのは酒井さんの生活の断片のはずなのに、気が付けば日常と非日常の隙間にあるような世界に連れ出され、どんどん引き込まれます。淡々とした文体は静かに囁くようで、読んでいるのに思わず耳をすませてしまいます。こまやかな描写に想像をふくらませていくひとときが、とても好きです。

あなたの「知りたい」をサポート パスファインダーを ぜひお役立てください



あるテーマについて調べる際に、役に立つ資料や調べ方をまとめたものを「パスファインダー」といいます。県立図書館では、山梨に関する事柄や、問い合わせの多い内容を中心に、様々なテーマのパスファインダーを作成しています。調べる手順や基本的な資料を、A4サイズ2ページ分に簡潔に紹介したものです。大人向けと子ども向けがあり、館内で配布しているほか、ホームページからもご覧いただけます。

大人向けには、人物情報、法令、医療情報、日本の歌の歌詞をテーマとして調べ方を紹介しています。郷土編では、山梨の歴史や県内の社寺、石碑、歴史的建築物、甲州道中やほうとう(饂飩)の調べ方について紹介しています。

子ども向けは、小学校高学年から高校生の利用を想定して作成しています。外来種(外来生物)や選挙、和紙など10のテーマのほか、方言、伝統工芸、郷土料理など山梨に関する9のテーマで作成して公開しています。

大人向けと子ども向けの両方を組み合わせて、より詳しい調査をすることもできます。

例えば、県立図書館には「ほうとう」の起源や歴史、レシピについての問い合わせが多く寄せられますが、大人向けの「ほうとうについて調べる」と、子ども向けの「山梨の郷土料理について調べよう!」のパスファインダーをご覧いただくと、やさしく書かれた本から学術論文まで、幅広い情報へアクセスすることができます。

今後も様々なテーマのパスファインダーを作成していく予定ですので、ぜひ調べ物の際にご利用ください。

(調査サービス担当 山本、子ども読書推進担当 後藤)

放送ライブラリー 視聴サービスの提供を開始しました

放送法に基づく国内唯一の放送番組専門のアーカイブ施設である「放送ライブラリー」が保存・公開しているテレビ・ラジオ番組の中から、山梨県に関する過去の番組の一部を視聴できるようになりました。富士山や南アルプスの自然、武田信玄などの歴史、郷土の祭りや伝統工芸などさまざまな番組をお楽しみください。

〈放送ライブラリー〉視聴サービスは、館内のパソコン席からご利用いただけます。ご利用の際は、サービスカウンターにお申し出ください。なお、パソコン席の申込みには、図書館利用カードが必要です。(情報システム担当 馬淵)



テーマ展示 の報告

地方病をのりこえて

令和6年7月26日～9月29日

山梨の人々を苦しめた地方病(日本住血吸虫症)の病原体が発見されてから今年で120年。流行終息宣言が出されたのは平成に入ってからです。山梨をテーマに本を紹介する情報サテライト2では、この夏、地方病や山梨県の医療に関する資料、医療関係者による著作など約100冊を展示しました。COVID-19 流行による社会の混乱の記憶がまだ新しい現在、過去の医療や公衆衛生に関する記録から何かを得ていただければ幸いです。

(調査サービス担当 大平)



『日本仁医物語 第3巻 甲信越・北陸篇』
今川徳三／共編
国書刊行会 1984.1



『住血吸虫症と宮入慶之助』
宮入慶之助記念誌編集委員会／編
九州大学出版会 2005.11



『俺は地方病博士だ』
山梨地方病研究部／編集
つなぐ 出版年不明

県図書TOPICS

TOPIC1

図書館アクアリウム

青いビニールを水槽に見たてたガラス面に、5種類の紙製の金魚を貼り付けて、涼しさや、夏の訪れを感じていただけるイベントを開催しました。訪れた方々がペンで目やうろこを描いた様々なデザインの金魚が日ごとに増え、館内を華やかに彩りました。

(指定管理者きらっとやまなし共同事業体 野村)



TOPIC2

子どもの読書 オープンカレッジ(第2回) を開催しました

7月11日(木)、山梨むかしがたりの会代表の藤巻愛子氏を講師にお迎えし、「昔話の語りっこ」をテーマに開催しました。参加者は昔話・伝説の特徴や語り方を学んだ後、グループに分かれ、講師が語る「こわい話」「かわいそうな話」「おもしろい話」をその場で覚えて語りました。(子ども読書推進担当 後藤)



TOPIC3

かいぶらり 夏休みこども映画会

7月28日(日)、笛吹市出身の小説家、辻村深月氏の小説を劇場アニメ化した、『かがみの孤城』を上映しました。中学生の心理が丁寧に描写され、互いに支え合いながら困難を乗り越えていく姿が印象的でした。エンドロール終了後も会場にいた全員が心地よい余韻に浸っていました。

(企画振興担当 佐藤)



TOPIC4

やま読フォーラムに 金田一館長が登壇しました ～やまなし読書活動促進事業～

8月10日(土)に都留文科大学でやま読フォーラムが開催されました。フォーラムテーマは「人文知と言葉・読書」で、金田一館長の講演のほか、読者の立場から「なぜ本を読むのか」を参加者と議論しました。大学生による読書活動の事例発表もあり、充実したフォーラムとなりました。(企画振興担当 丸山)

